

日枝神社

ひえじんじや

アクセスMAP



江戸時代（天和三年・一六八一年）庵谷より産出の金・銀を採掘のため、富山藩主前田公が多くの採掘者を導入し事業の遂行を企てた。

その際、当時富山藩の総産土神として崇敬の念が篤かった現富山市山王町鎮座の日枝神社の御分霊を庵谷銀山の守護神として稗草嶺山王台地に祀った。

それから、約百年後、天明二年（一七八一）に字山口の地に御遷座された。



以来約一三〇年を経て明治四三年（一九一〇）に庵谷字上野の現在地に日枝神社を始め八幡社、栗島神社、山の神、稻荷大明神、秋葉大権現の六社が合祀された。

その後、昭和二年（一九四七）の庵谷大火災後に氏子一同の願いにより昭和二五年、秋葉大権現を旧社地に本殿を新築、御遷座して今日に至っている。

現在の日枝神社拝殿は、昭和五〇年に新築、御造営された。なお、六神社が往時、庵谷に鎮座されたのは、富山藩の命令により庵谷銀山に派遣された人々が夫々自分の氏神を祀ったことによる。

《社格》村社

《鎮座地》富山市庵谷六八五

《御祭神》大山咋神、少彦名命